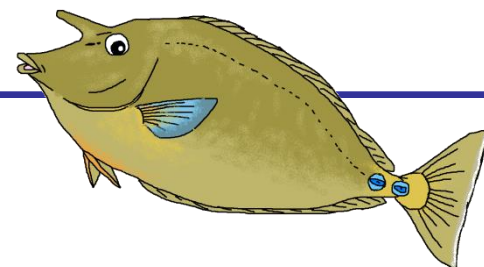




さかなのおはなし

第13回: 八重山のイノーイユ漁獲量

2014年12月1日 発行



2012年12月からスタートした「さかなのおはなし」も、今回で2周年を迎えました。今回は、近年の八重山におけるイノーイユの漁獲量とそのセリ単価を紹介します。

八重山で多く獲られている魚は？

八重山産イノーイユの年間漁獲量 (トン)

※ 背景が青色の集計魚種は、複数の種類を含んだ値です。

集計魚種名	方言名	2009	2010	2011	2012	2013
フダイ科	いらぶちやー(複数種)	32.8	31.9	30.8	26.0	25.4
ナンヨウブダイ	おおばちやー	27.3	27.6	25.3	23.4	21.2
イソフェフキ	くちなぎ	20.0	18.9	18.0	14.0	12.3
小型ふえだい類	びたろー(複数種)	16.2	13.0	13.8	14.7	12.2
ハマフェフキ他	たまん	17.0	13.1	9.8	8.0	9.7
テングハギ他	ちぬまん	6.3	5.7	5.7	6.7	9.1
スジアラ	あかじん	13.1	12.0	9.9	8.7	8.6
ナミハタ	さっこーみーばい	10.9	9.7	9.2	8.3	6.7
ヒメジ科	かたかし(複数種)	10.1	9.8	8.3	6.6	6.4
シモフリアイゴ	えーぐあー	14.2	10.6	10.0	7.2	6.2

この統計は、八重山漁協、県漁連に出荷された八重山産の沿岸性魚類(イノーイユ)の漁獲量を集計したものです。近年最も漁獲量が多いのは、いらぶちやー(ブダイ複数種)で、単一の魚種ではおおばちやー(ナンヨウブダイ)でした。セリ名称のいらぶちやーには、複数の種類が含まれますが、構成割合が多いのはひみかー(スジブダイ)とぼーらー(キツネブダイ)、ほーとぐあー(イチモンジブダイ)です。また、びたろーには、深層性のふかやーびたろー(ハナフェダイ)が含まれているため、厳密にはイノーの魚だけではありません。漁獲量を見てみると、2012年と比べ、2013年は、たまんとちぬまんが増加、おおばちやーとあかじん、かたかしでやや減少、その他の魚種では10%以上減少していました。

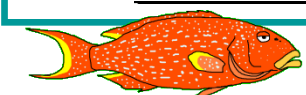
さかなのお値段

八重山産イノーイユの年間獲平均セリ単価 (円/kg)

※ 背景が青色の集計魚種は、複数の種類を含んだ値です。

集計魚種名	方言名	2009	2010	2011	2012	2013
フダイ科	いらぶちやー(複数種)	696	668	691	719	738
ナンヨウブダイ	おおばちやー	890	870	896	917	973
イソフェフキ	くちなぎ	674	702	707	694	684
小型ふえだい類	びたろー(複数種)	1,033	1,078	1,182	1,134	1,148
ハマフェフキ他	たまん	752	729	785	763	784
テングハギ他	ちぬまん	346	347	330	341	337
スジアラ	あかじん	2,325	2,239	2,248	2,241	2,164
ナミハタ	さっこーみーばい	1,091	1,054	1,089	1,075	1,068
ヒメジ科	かたかし(複数種)	511	488	535	550	565
シモフリアイゴ	えーぐあー	629	632	671	715	763

漁獲量とならんで重要な統計値がセリ単価です。左の表は、八重山漁協と泊魚市セリでの年間平均単価をまとめたものです。最も単価が高いのは、あかじんで、kgあたり2,200円前後を推移しています。近年の価格で注目すべき点は、ハタ類など高級魚の価格が低下傾向にあるのとは反対に、ブダイ類の価格が向上している傾向にあることです。この表にはありませんが、あーがいやぐじらぶったい、さらにはベラの仲間のまくぶでも価格の改善が見られています。他にも、かたかしやえーぐあーでも価格の改善が見られており、これまで注目されてこなかった魚にも、需要が高まっていることがうかがえます。忘年会のお刺身盛り合わせにも、きっといらぶちやーが登場することでしょう！



◎ 沖縄県水産海洋技術センター石垣支所 石垣市字川平828-2 電話:0980-88-2255(担当:秋田)

←バックナンバーが見られます! <http://www.pref.okinawa.jp/fish/sakana-hanashi/index.html>